

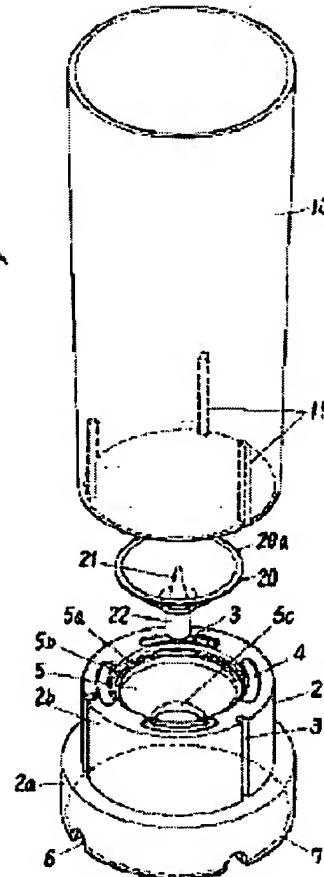
CANDLE STAND FOR GRAVE

Patent number: JP9302998
Publication date: 1997-11-25
Inventor: SUZUKI MASANORI
Applicant: SANREI KK
Classification:
 - international: A47G33/00; E04H13/00; A47G33/00; E04H13/00;
 (IPC1-7): E04H13/00; A47G33/00
 - european:
Application number: JP19960146694 19960515
Priority number(s): JP19960146694 19960515

[Report a data error here](#)

Abstract of JP9302998

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a candle stand having an easily detachable cover section, excellent in safety, facilitating the intake of atmospheric air, preventing a candle from incomplete combustion, at the same time, preventing the interior wall of the cover section from making it dirty with soot, capable of flaming the candle without being influenced by wind, etc., preventing the candle stand from blowing down or being upset with wind or birds, having a simple construction, excellent in productivity and having easy maintenance and control. **SOLUTION:** A candle stand for grave is equipped with a lower stand 2a, an upper stand 2b monolithically formed of the lower stand 2a, a cover fitting section 3 formed in the side wall of the upper stand 2b, an upper vent hole 4 formed in the upper surface of the upper stand 2b, a candle holder 5 formed in the upper surface of the upper stand 2b and a pedestal section 2 equipped with a lower vent hole 6 formed in the side wall of the lower stand 2a. It is also equipped with a cylindrical cover section 10 having a cover locking section 11 formed in the interior wall around an opening section and a recessed candle stand 20 having a candle bearing section 21 in the approximately center section.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-302998

(43)公開日 平成9年(1997)11月25日

(51) Int.Cl.⁶
E 04 H 13/00
A 47 G 33/00

識別記号 庁内整理番号

F I
E 04 H 13/00
A 47 G 33/00

技術表示箇所
J
D

審査請求 未請求 請求項の数6 FD (全8頁)

(21)出願番号 特願平8-146694

(22)出願日 平成8年(1996)5月15日

(71)出願人 591132014
有限会社サンレイ
大分県別府市照波園町6番13号

(72)発明者 鈴木 正徳
大分県別府市照波園町6番13号 有限会社
サンレイ内

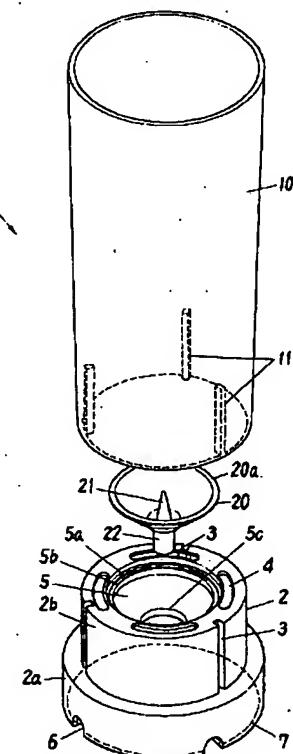
(74)代理人 弁理士 榎本 一郎

(54)【発明の名称】 墓前蠟燭立て

(57)【要約】

【課題】 本発明は、カバー部の脱着が容易で、安全性に優れ、外気が取り込まれ易く、蠟燭の不完全燃焼を防ぐとともに、カバー部の内壁を煤で汚すのを防ぎ、更に、風等に影響されずに蠟燭の炎を灯すことができ、風で飛ばされたり、鳥等により倒されることがなく、構造が簡単で量産性に優れ保守管理が容易な墓前蠟燭立てを提供することを目的とする。

【解決手段】 本発明の墓前蠟燭立ては、下台2aと、下台2aと一体に形成された上台2bと、上台2bの側壁に形成されたカバー嵌合部3と、上台2bの上面に形成された上部通気孔4と、上台2bの上面に形成された燭台受部5と、下台2aの側壁に形成された下部通気孔6と、を備えた台座部2と、開口部の近傍の内壁に形成されたカバー係止部11を有した筒状のカバー部10と、略中心部に蠟燭支持部21を有した凹状の燭台20と、を備えている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 (a) 下台と、前記下台の上部に前記下台と一緒に形成された上台と、前記上台の側壁に前記上台の上端部から下方に形成された1乃至複数のカバー嵌合部と、前記上台の上面に形成された上部通気孔と、前記上台の上面に形成され略中心部に孔部を有する燭台受部と、前記下台の側壁に形成された下部通気孔と、を備えている台座部と、

(b) 両端に開口部と、前記カバー嵌合部に嵌着され前記開口部の近傍の内壁に形成された1乃至複数のカバー係止部と、を備え、前記台座部の前記上台に脱着自在に嵌着される筒状のカバーパーと、

(c) 略中心部に蠟燭支持部を有し、前記燭台受部に脱着自在に配設された燭台と、を備えていることを特徴とする墓前蠟燭立て。

【請求項2】 前記台座部が中空状に形成され、前記下台の底面が開口部を有し、前記開口部に配設され前記下部通気孔と略同位置に切欠き部を有した底板を備えていることを特徴とする請求項1に記載の墓前蠟燭立て。

【請求項3】 前記下台の底面又は前記底板の下面にブチルゴム系等の感圧接着剤を用いた両面テープからなる固定部を有していることを特徴とする請求項1又は2の内いずれか1項に記載の墓前蠟燭立て。

【請求項4】 前記燭台が半球状又は角錐台状等下に突状に形成され、その下面中央に突起部を備え、かつ前記燭台受部が前記燭台を嵌合する凹状に形成されていることを特徴とする請求項1乃至3の内いずれか1項に記載の墓前蠟燭立て。

【請求項5】 前記燭台受部が凹部内周壁の上部に段差部が形成されていることを特徴とする請求項1乃至4の内いずれか1項に記載の墓前蠟燭立て。

【請求項6】 前記カバーパーの上端開口部が下端開口部よりも拡開され、下端から上端までの周壁の傾斜角度が $0.5^{\circ} \sim 3^{\circ}$ に形成されていることを特徴とする請求項1乃至5の内いずれか1項に記載の墓前蠟燭立て。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は墓前等に備える墓前蠟燭立てに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、お盆やお彼岸等の先祖の墓参りの際には、墓前にお花を供えたり、お線香や蠟燭を灯す慣習がある。しかし、蠟燭の火は風が吹くとすぐに消えるため、火が消える度に火を点けなおさなければならず、お参りの最中に蠟燭の火を点けなおす等、煩わしいという問題点があった。

そこで、これらの問題点を解決するために、次のものが開示されている。a、実開平6-55480号公報(以下、イ号公報という)には、角形で所要高さの台座本体の上部には円形で所要高さの嵌入部を突設し、該嵌入部

の中央には所要径、所要深さの凹部を配設し、嵌入部の上面には台座本体の周面に一端を開口する通気孔の他端を開口し、周面には耐熱性樹脂或いは耐熱ガラス等の透明ケースの下部を嵌入し、該ケースの上部にはキャップを被蓋し、該キャップには内部に連通する排気孔を周設し、更に、台座本体の底面に吸着盤を一体にして成る灯明台が開示されている。

b、また、市販の屋外用蠟燭立てとしては、略壺状に形成された台座部が、台座部の上方の外壁部に刻設された螺条部と、台座部の上部に形成された凹部と、凹部の内部底面の中央部に立設された略円筒状の蠟燭嵌入部と、蠟燭嵌入部の内部底面の中央部に立設された釘等から成る蠟燭支持棒と、台座部の下面周縁部3箇所に突起状に形成された脚部と、凹部の底面外側に3箇所貫通して形成された通気孔と、を備え、耐熱樹脂製や耐熱ガラス製等で略円筒状に形成された透明カバーパーの両側開口端の内壁に各々2個ずつ対向して突設した突起部が台座部の螺条部に螺着されて固定される構成を有している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、上記従来の蠟燭立ては以下のようないくつかの問題点を有していた。上記従来のイ号公報に記載の灯明台では、台座本体の周面に一端を開口する通気孔の他端を開口しているが、蠟燭の炎で溶けた蠟が通気孔を塞いでしまい、外気が取り込まれ難くなり、蠟燭が不完全燃焼をおこし易いという問題点を有していた。また、約1400°Cの高温に達する蠟燭の外炎の熱の放出の効率に欠け、キャップ全体が加熱されるため、火傷等の注意が必要であり、安全性に欠けるという問題点を有していた。また、蠟燭の炎の熱や輻射熱によって透明ケースが加熱され、透明ケースに熱歪が生じ、使用するにつれ機械的強度が低下し、割れたり曲がったりして耐久性に欠けるという問題点を有していた。また、蠟燭が短くなるにつれ、炎の熱が蠟燭が嵌入された凹部の内壁で反射されて凹部内で蠟燭が溶けるため、凹部内に溜まった蠟の後始末が困難であるという問題点を有していた。更に、通気孔の形成が複雑であるため量産性に欠けるという問題点を有していた。また、倒れ防止の吸着盤は、夏期の日差し等で硬化し易いため、吸着効果が薄れ易く、倒れ防止の機能を果たせなくなるという問題点を有していた。また、上記市販の屋外用蠟燭立ては、蠟燭を灯した後に透明カバーパーを台座部の螺条部に螺着して固定するため、透明カバーパーの固定に時間がかかり、利便性に欠けるとともに、蠟燭の炎での火傷に注意が必要であり、安全性に欠けるという問題点を有していた。また、透明カバーパーの固定が困難なため、透明カバーパーの取り付けの際に、透明カバーパーを誤って蠟燭の炎にあて易いため、蠟燭の炎を不完全燃焼させ透明カバーパーを煤で汚し明かり取りができにくくなるとともに、美観を害するという問題点を有していた。

【0004】 本発明は上記従来の問題点を解決するもの

で、カバー部の脱着が容易で、安全性に優れ、また、外気が取り込まれ易く、蠟燭の不完全燃焼を防ぐとともにカバー部の内壁を煤で汚すのを防ぎ、更に、風等に影響されずに蠟燭の炎を灯すことができ、風で飛ばされたり、鳥等に倒されたりして破損する事がない、構造が簡単で量産性に優れ保守管理が容易な墓前蠟燭立てを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するためには本発明における墓前蠟燭立ては、下台と、前記下台の上部に前記下台と一緒に形成された上台と、前記上台の側壁に前記上台の上端部から下方に形成された1乃至複数のカバー嵌合部と、前記上台の上面に形成された上部通気孔と、前記上台の上面に形成され略中心部に孔部を有する蠟台受部と、前記下台の側壁に形成された下部通気孔と、を備えている台座部と、両端に開口部と、前記カバー嵌合部に嵌着され前記開口部の近傍の内壁に形成された1乃至複数のカバー係止部と、を備え、前記台座部の前記上台に脱着自在に嵌着される筒状のカバー部と、略中心部に蠟燭支持部を有し、前記蠟台受部に脱着自在に配設された凹状の蠟台と、を備えた構成を有している。この構成により、台座部の下台の側壁と上台の上面に下部通気孔と上部通気孔が連通して形成されているためにカバー部内に外気が取り込まれ易く、蠟燭の不完全燃焼を防ぎ、カバー部の内壁を煤で汚すのを防ぐという作用を有する。また、雨水が上部通気孔から下部通気孔へ流れ排水されるため、カバー部内に雨水が溜まらず清潔に保てるという作用を有する。また、カバー部のカバー係止部を台座部のカバー嵌合部に嵌入するだけでカバー部を嵌着し確実に固定でき、カバー部を誤って蠟燭の炎にあてるのを防ぐという作用を有する。また、蠟台の略中心部に蠟燭支持部を有すため蠟燭の倒れ防止ができるという作用を有する。更に、蠟台が蠟台受部に脱着自在に配設されているため、蠟台を取り外して固まつた蠟を排除したり、清掃を行え清潔に保てるという作用を有する。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明の請求項1に記載の墓前蠟燭立ては、下台と、前記下台の上部に前記下台と一緒に形成された上台と、前記上台の側壁に前記上台の上端部から下方に形成された1乃至複数のカバー嵌合部と、前記上台の上面に形成された上部通気孔と、前記上台の上面に形成され略中心部に孔部を有する蠟台受部と、前記下台の側壁に形成された下部通気孔と、を備えている台座部と、両端に開口部と、前記カバー嵌合部に嵌着され前記開口部の近傍の内壁に形成された1乃至複数のカバー係止部と、を備え、前記台座部の前記上台に脱着自在に嵌着される筒状のカバー部と、略中心部に蠟燭支持部を有し、前記蠟台受部に脱着自在に配設された凹状の蠟台と、を備えた構成を有している。この構成により、下

部通気孔と上部通気孔が連通して形成されているためにカバー部内に外気が取り込まれ易く不完全燃焼を防ぐとともに、下部通気孔と上部通気孔が排水孔の役目も果たすため、カバー部内に雨水が溜まらず清潔に保てるという作用を有する。また、カバー部のカバー係止部を台座部のカバー嵌合部に嵌入するだけでカバー部を嵌着し固定できるという作用を有する。また、蠟台の略中心部に蠟燭支持部を有すため蠟燭の倒れ防止ができるという作用を有する。更に、蠟台が蠟台受部に脱着自在に配設されているため、蠟台を取り外して清掃ができるという作用を有する。尚、台座部は石材製や陶器製、又はA E S樹脂や耐候処方を施したポリオレフィン、A B S樹脂、塩化ビニール樹脂等の耐候性や耐熱劣化性に優れた合成樹脂製であるが、軽量化、量産性の点からA E S樹脂等の耐候性や耐熱劣化性に優れた合成樹脂を用いるのが好ましい。また、台座部は円形、橢円形等や四角形、六角形等の多角形状等の中実状又は中空状であるが、成形のし易さ、軽量化、コストの低減等の点から中空状が好ましい。また、上台が円形で下台が四角形等上台と下台の形状は変てもよい。上部通気孔と下部通気孔の連通は台座部を中空状に形成し、中空部で連通させるか、又は台座部を中実にした場合は連通孔を形成して行う。カバー部の抜けを確実に防止するため、カバー嵌合部を上台の側壁に上台の上端部から下方に30mm～40mm鉛直方向に溝状又は切欠き状に形成されている。また、カバー嵌合部は下端をL字状又はT字状に形成してカバー部のカバー係止部をカバー嵌合部のL字状部又はT字状部に嵌合してもよく、カバー係止部を確実に係止しカバー部の抜け防止ができる。カバー部はガラス製や耐候性や耐熱性を強化したポリカーボネート樹脂、アクリル樹脂等の透明な合成樹脂で形成されている。成形のし易さや生産性等の点から透明な合成樹脂製を用いるのが好ましい。また、カバー係止部はカバー嵌合部に嵌着されるためカバー嵌合部に応じて長尺又は短尺の突条や突起等の形状で1乃至カバー嵌合部と同数形成されている。蠟台には真鍮製、ステンレス製、アルミ製等の金属や難燃性のFRP等が用いられる。

【0007】本発明の請求項2に記載の墓前蠟燭立ては、請求項1に記載の発明において、前記台座部が中空状に形成され、前記下台の底面が開口部を有し、前記開口部に配設され前記下部通気孔と略同位置に切欠き部を有した底板を備えた構成を有している。この構成により、上部通気孔と下部通気孔が連通し燃焼用空気の供給を行うことができ、また、底板が下部通気孔と略同位置に切欠き部を有すため、底板の厚みにより下部通気孔が小さくなるのを防ぐとともに、外気の流入や雨水の排水を確実に確保するという作用を有する。尚、底板の取り付けは台座部の開口部への嵌合、もしくは開口部の縁部やリブ等へ接着剤、ネジ等による螺着等で行う。尚、生産性、製品精度等の点からネジ等による螺着による取り

付けが好ましい。

【0008】本発明の請求項3に記載の墓前蠟燭立ては、請求項1又は2の内いずれか1項に記載の発明において、前記下台の底面又は前記底板の下面にブチルゴム系等の感圧接着剤を用いた両面テープからなる固定部を有した構成を有している。この構成により、台風等の強風が吹いたり、地震やカラス等の鳥が止まつたりした際でも該墓前蠟燭立てが倒れるのを防ぐという作用を有する。また、両面テープとして粗面への密着性や耐水性、耐久性に優れたブチルゴム系等の感圧接着剤を用いているので、該墓前蠟燭立てが倒れるのを防ぐとともに、該墓前蠟燭立てが破損したり、不要になった際にカッター等で両面テープ部分を切るか、くさび状に傾け外力を加えることにより取り外せるという作用を有する。尚、感圧接着剤としては、ブチルゴム系の他、ポリイソブチレン、塩化ゴム、臭化ゴム、SBR、ポリクロロブレン、天然ゴム、合成ポリイソブレン、グラフトゴム等を用いることができる。

【0009】本発明の請求項4に記載の墓前蠟燭立ては、請求項1乃至3の内いずれか1項に記載の発明において、前記燭台が半球状又は角錐状等の下に突状に形成され、その下面中央に突起部を備え、かつ前記燭台受部が前記燭台を嵌合する凹状に形成された構成を有している。この構成により、燭台受部の略中心部に形成された孔部に燭台の下面の突起部が配設されるため、燭台を安定して保持できるという作用を有する。また、燭台の下面に突起部を有しているため、燭台を地面等に落とした場合でも燭台が傾斜するため、蠟燭支持部が上を向かず横になり、誤って燭台を踏みつけた際でも蠟燭支持部が人の足に突き刺さるのを防ぐことができるという作用を有する。

【0010】本発明の請求項5に記載の墓前蠟燭立ては、請求項1乃至4の内いずれか1項に記載の発明において、前記燭台受部が凹部内周壁の上部に段差部が形成された構成を有している。この構成により、蠟燭の直径の大きさに応じて燭台を交換することができるとともに燭台上端周囲を段差部内に嵌合することができるので蠟燭を直立させ蠟燭が傾いて蠟燭の炎でカバー部を焦がすのを防ぐことができるという作用を有する。

【0011】本発明の請求項6に記載の墓前蠟燭立ては、請求項1乃至5の内いずれか1項に記載の発明において、前記カバー部の上端開口部が下端開口部よりも拡開され、下端から上端までの周壁の傾斜角度が0.5°～3°に形成された構成を有している。この構成により、カバー部を台座部に密着して嵌合できるため、カバー部を確実に固定することができ、風等によりカバー部が抜けたり、鳥等によりカバー部がはずされ、カバー部が紛失するのを防止するという作用を有する。また、カバー部の周壁を傾斜して形成しているため、カバー部を台座部に嵌合した際にカバー部の下方のみが広がるのを

防ぎ、該墓前蠟燭立ての見栄えをよくできるという作用を有する。

【0012】(実施の形態1)以下本発明の実施の形態1について、図1乃至図3を用いて説明する。図1は本実施の形態1における墓前蠟燭立ての分解斜視図であり、図2(a)は燭台を配設した台座部の要部断面図であり、図2(b)は燭台の斜視図であり、図3は台座部の要部底面図である。図1において、1は本実施の形態1における墓前蠟燭立て、2はAES樹脂等の合成樹脂製で内部が中空状に形成され底面が開口した台座部、2aは台座部2の下台、2bは下台2aの上部に同軸状で下台2aと一体に形成された台座部2の上台、3は上台2bの側壁の3箇所に上台2bの上端部から下方に鉛直方向に溝状に形成されたカバー嵌合部、4は上台2bの上面の4箇所に穿孔された上部通気孔、5は上台2bの上面に凹状に形成された燭台受部、5a、5bは燭台受部5の凹状に形成された内周壁の上部に形成された段差部、5cは燭台受部5の凹部の略中心部に形成された孔部、6は下台2aの側壁の1乃至複数箇所に台座部2の内部に貫通して形成された下部通気孔、7は台座部2の底面を塞ぎ台座部2のリブ等にネジ等で螺着された底板である。10はポリカーボネートやポリアクリレート、ポリエステル、ポリアミド等の合成樹脂で両端が開口で円筒状に形成されたカバー部、11はカバー嵌合部3に応じてカバー部10の開口部の近傍の所定位置の1乃至複数箇所の内壁に開口部に対して直交状に突状に形成されたカバー係止部である。図2(a)、(b)において、20は燭台受部5に脱着自在に配設された真鍮等の金属製で半球状に形成された燭台、20aは燭台20の鋸部、21は燭台20の凹部中心部に突状に形成された蠟燭支持部、22は燭台20の下面の略中心部に形成された突起部である。尚、カバー嵌合部3は30mmの長さで形成され、カバー係止部11はカバー嵌合部3に応じて30mm～35mmの長さで形成されている。8aはネジ、8は底板7が台座部2にネジ8a等で螺着される螺着部、9は底板7の下面に接着されたブチルゴム系等の感圧接着剤が両面に貼着された両面テープである。図3において、7aは下部通気孔6と同位置に形成された切欠き部、7bは底板7を台座2にネジ8a等で螺着する際の螺着孔である。

【0013】以上のように構成された本実施の形態1の墓前蠟燭立てについて、以下その使用方法を図1乃至図3を用いて説明する。本実施の形態1における墓前蠟燭立て1は底板7に貼着された両面テープ9の剥離紙を剥いで墓石台部に接着され固定される。燭台受部5の孔部5cに燭台20の突起部22を挿入して燭台20の鋸部20aを段差部5a又は5bに当接させて台座部2の燭台受部5に遊嵌挿着する。蠟燭支持部21に蠟燭を立て火をつけた後、カバー係止部11をカバー嵌合部3に嵌入しながらカバー部10が台座部2に嵌着される。蠟燭

の炎で熱せられた空気はカバー部10の上部の開口端から排出され、空気の排出とともに外気が下部通気孔6から流入し、台座部2の内部を介して上部通気孔4からカバー部10内に空気が供給される。また、カバー部内に雨水等が降り込んだ場合は上部通気孔4から台座部2の内部に流れ、下部通気孔6から排水される。また、炎の熱により溶けた蠟は燭台20の凹部に溜まる。更に、該墓前蠟燭立ての清掃の際はカバー部10と燭台20が台座部2から取り外され、雨による燭台20の溜水や固まった蠟が除去される。

【0014】以上のように本実施の形態1の墓前蠟燭立てによれば、カバー係止部をカバー嵌合部に嵌入するだけでカバー部を嵌着し固定できるとともに、カバー嵌合部とカバー係止部が長尺に形成され、カバー嵌合部とカバー係止部の接触面積が大きいためカバー部の抜け防止の作用を有する。また、カバー部を有するため風等で消えることなく蠟燭の火を灯すことができるという作用を有する。また、燭台の突起部を燭台受部の孔部に挿入されるとともに、燭台受部の段差部に当接して燭台が配設されたため、燭台が台座部の略中心部からはずれず、蠟燭が倒れるのを防ぐという作用を有する。また、燭台受部に段差部を複数有するため、蠟燭の直径の大きさに合わせて燭台を交換できるという作用を有する。また、下部通気孔から台座部の内部を介して上部通気孔からカバー部内に外気が供給されるため蠟燭を完全燃焼させることができるとともに、ドラフト効果により蠟燭の炎で熱せられた空気がカバー部の上部開口端から排出されるためカバー部が高温に熱せられるのを防ぐという作用を有する。また、カバー部内に降り込んだ雨水等は上部通気孔から台座部内に流れ下部通気孔から排水され、カバー部内に雨水が溜まるのを防ぐ作用を有する。更に、燭台が脱着自在に配設された際に燭台の雨水等の溜水や溶けた蠟等の除去がし易く、該墓前蠟燭立てを清潔に保つことができるという作用を有する。また、該墓前蠟燭立てをブチルゴム系等の感圧接着剤を用いた両面テープで墓前に接着しているため、該墓前蠟燭立てが破損したり、不要になった際にカッター等で両面テープ部分を切るか、くさび状に傾け外力を加えることにより取り外すことができる。尚、本実施の形態1では燭台受部を凹状に形成したものを用いて説明したが、平面状に形成してもよい。

【0015】(実施の形態2)以下本発明の実施の形態2について、図4を用いて説明する。図4は本実施の形態2における墓前蠟燭立ての分解斜視図である。図4において、2は台座部、2aは台座部2の下台、2bは台座部2の上台、4は上部通気孔、5は燭台受部、5a、5bは段差部、5cは孔部、6は下部通気孔、7は底板である。10はカバー部、20は燭台、20aは鉛部、21は蠟燭支持部、22は突起部であり、これらは実施の形態1と同様なもので同一の符号を用い説明を省略す

る。1'は本実施の形態2における墓前蠟燭立て、3'は上台2の側壁の3箇所に上端から下端部にかけて鉛直方向に溝状に形成され、下端部が90°折曲がって係合部が形成された溝状のカバー嵌合部、11'はカバー嵌合部3'の溝の形状に応じて形成された突起部からなり、カバー嵌合部3'の係合部に係合されるカバー係止部である。

【0016】以上のように構成された本実施の形態2の墓前蠟燭立てにおける使用方法は実施の形態1と略同様であり、実施の形態1と異なる点はカバー部の嵌合である。本実施の形態2の墓前蠟燭立ては、カバー係止部11'をカバー嵌合部3'に嵌入してカバー係止部11'をカバー嵌合部3'のL字型部分に嵌着しカバー部10を台座部2に固定する。以上のように本実施の形態2の墓前蠟燭立てによれば、実施の形態1と同様の効果を得ることができる。

【0017】(実施の形態3)以下本発明の実施の形態3について、図5を用いて説明する。図5は本実施の形態3におけるカバー部の斜視図である。図5において、10はカバー部、11はカバー係止部であり、これらは実施の形態1と同様なもので同一の符号を用いて説明を省略する。θはカバー部10の上端開口部から下端開口部までの周壁の傾斜角度であり、0.5°~3°で形成されている。以上のように構成された本実施の形態3の墓前蠟燭立てのカバー部の嵌合は実施の形態1と略同様であり、実施の形態1と異なるのはカバー部の周壁が傾斜している点である。本実施の形態3の墓前蠟燭立てによれば、実施の形態1と同様の効果の他に、カバー部を台座部に嵌合した際にカバー部が台座部に密着して固定されるため、カバー部を確実に固定できるという作用を有する。また、カバー部を台座部に嵌合した際に、嵌合部分がカバー部の上端部より広がるのを防ぎ、該墓前蠟燭立ての見栄えを良くするという作用を有する。尚、カバー部の傾斜角度θが大きい場合は、カバー部が台座部に密着されて固定されるため、カバー部の係止部を形成しなくてもよい。

【0018】

【発明の効果】以上のように請求項1に記載の発明によれば、カバー係止部をカバー嵌合部に嵌入するだけでカバー部を台座部に嵌着できるため、カバー部の装着が容易に素早くでき、カバー部の装着時の火傷等を防ぐことができ安全性に優れる。また、カバー部を有するため風等で蠟燭の炎が消えることなく、お参りの最中に蠟燭を点けなおすという煩わしさをなくすことができる。また、カバー部を台座部に密着して確実に固定できるためカバー部がずれるのを防ぎ、蠟燭の炎でカバー部を焦がしたり、変形させるのを防ぐことができる。また、下部通気孔からカバー部内に外気が供給されるため蠟燭を完全燃焼させることができ、不完全燃焼による蠟燭の煤でカバー部の内壁を汚すのを防ぐことができ、カバー部を

見栄え良く保つことができる。また、下部通気孔からカバー部内に外気が供給されるため、ドラフト効果により蠟燭の炎で熱せられたカバー部内の空気をカバー部の上部の開口端から効率よく排出できるとともに、カバー部が高温に熱せられるのを防ぐため、蠟燭の燃焼中等にカバー部に触れた際に火傷等を防止し、安全性に優れる。また、熱によるカバー部の劣化を防ぎ、耐久性に優れる。また、カバー部内に降り込んだ雨水は上部通気孔から台座部内に流れ下部通気孔から排水されるため、カバー部内に雨水が溜まるのを防ぎ、カバー部内を清潔に保つことができる。また、カバー部と燭台が台座部と容易に脱着できるためカバー部、燭台、台座部の清掃が容易にでき、該墓前蠟燭立てを清潔に維持でき、保守管理が容易である。更に、該墓前蠟燭立ては構造が簡単であるため、量産性に優れる。請求項1又は2に記載の発明によれば、更に、底板の厚みにより下部通気孔が小さくなるのを防ぎ、外気の流入口や雨水の排水口を確実に確保し、外気の流入や雨水の排水性をよくできるため、蠟燭の不完全燃焼を防ぐとともに、カバー部内に雨水が溜まるのを防ぐことができる。請求項1乃至3に記載の発明によれば、更に、両面テープにより墓前に該墓前蠟燭立てを接着でき、台風等の強風が吹いたり、地震やカラス等の鳥が止まつたりして該墓前蠟燭立てが倒れて破損するのを防ぐことができる。また、両面テープにブチルゴム系等の感圧接着剤を用いることにより、該墓前蠟燭立てが破損した場合や不要となった場合にカッター等で両面テープ部分を切るか、くさび状に傾けて外力を加えることにより容易に取り外すことができ利便性に優れる。請求項1乃至4に記載の発明によれば、更に、燭台の下面の突起部が燭台受部の孔部に配設されるため、燭台の安定性がよく燭台が傾くことなく維持でき、カバー部に蠟燭の炎が触れずカバー部を焦がすことを防ぐことができる。また、燭台の下面の突起部により、燭台が地面に落ちた際等に燭台が傾斜するため蠟燭支持部が上に向かずに横になり、誤って燭台を踏みつけた場合にも蠟燭支持部が足に突き刺さるのを防ぎ安全性に優れる。請求項1乃至5に記載の発明によれば、更に、蠟燭の直径に応じて燭台を交換できるとともに、燭台を燭台受部に安定して配設でき、蠟燭を直立させて維持でき、蠟燭が傾いて蠟燭の炎でカバー部を焦がすのを防ぐことができる。

請求項1乃至6に記載の発明によれば、更に、カバー部を台座部に密着させて確実に固定でき、風で飛ばされたり、鳥等により持ち去られてカバー部が紛失するのを防止できるとともに、カバー部の嵌合部分がカバー部の上部より広がらず、該墓前蠟燭立ての見栄えを良くできる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施の形態1における分解斜視図

【図2】(a) 燭台を配設した台座部の要部断面図

(b) 燭台の斜視図

【図3】台座部の要部底面図

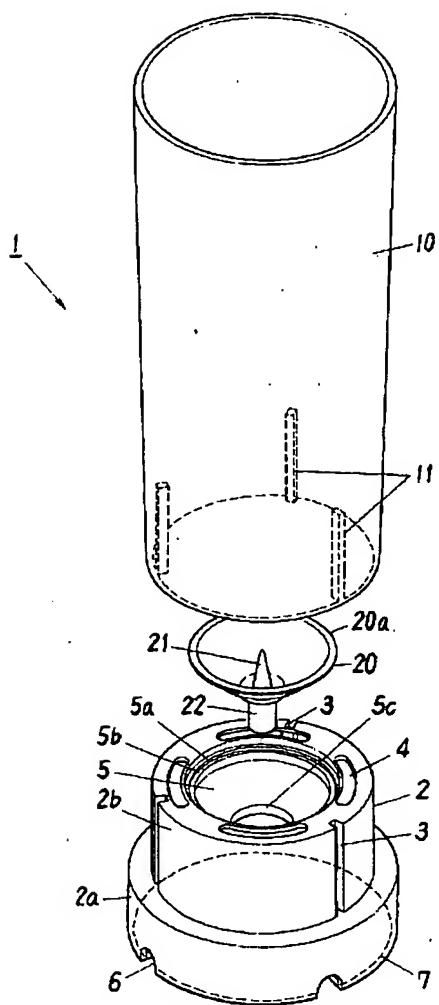
【図4】実施の形態2における分解斜視図

【図5】実施の形態3におけるカバー部の斜視図

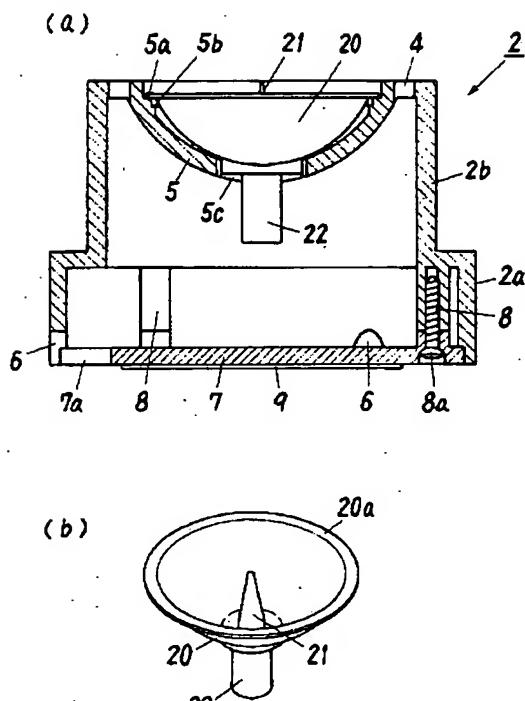
【符号の説明】

- 1 墓前蠟燭立て
- 1' 墓前蠟燭立て
- 2 台座部
- 2 a 下台
- 2 b 上台
- 3 カバー嵌合部
- 3' カバー嵌合部
- 4 上部通気孔
- 5 燭台受部
- 5 a 段差部
- 5 b 段差部
- 5 c 孔部
- 6 下部通気孔
- 7 底板
- 7 a 切欠き部
- 7 b 螺設孔
- 8 螺設部
- 8 a ネジ
- 9 両面テープ
- 10 カバー部
- 11 カバー係止部
- 11' カバー係止部
- 20 燭台
- 20 a 鎧部
- 21 蠟燭支持部
- 22 突起部

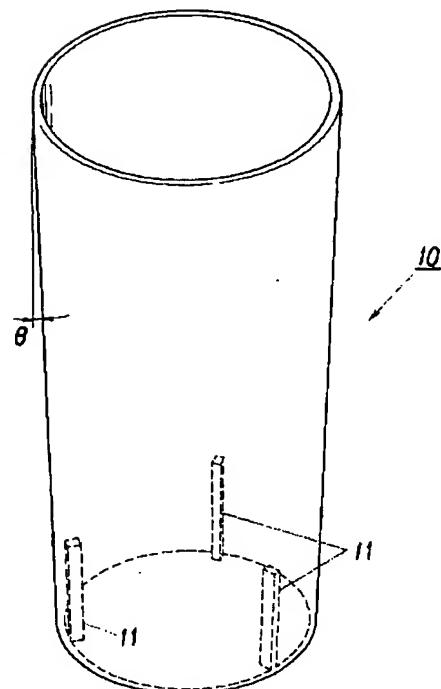
【図1】



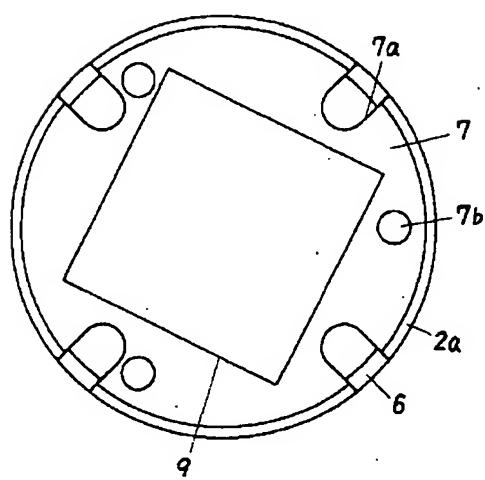
【図2】



【図5】



【図3】



【図4】

